

令和5年度 第2回学校運営協議会 記録

1 期日 令和5年10月24日（水）午後1時15分から4時15分まで

2 場所 静岡県立藤枝特別支援学校 多目的学習室

3 参加者

(1) 学校運営協議会委員

委員A【欠席】、委員B【欠席】、委員C、委員D、委員E、委員F、委員G

(2) 本校職員

校長（岩附祥子） 副校長（若杉友美） 教頭（大橋幸彦）

事務長（新澤健一） 小学部主事（采女靖彦） 中学部主事（神原秀晃）

高等部主事（中村研司） 肢体学級統括主任（斎藤雅行）

教務主任（鈴木裕） 地域連携課員（押尾朋子）

4 進行等

司会：副校長 記録：教務主任

5 内容

(1) 開会（司会：副校長）

(2) 校長挨拶

(3) 本校の「地域の『ひと もの こと』とつながる学習」の取組

・肢体不自由教育→小学部→中学部→高等部の順に写真のスライドを提示しながら紹介

【肢体不自由教育】：(小) 島田市こども館『ぼるね』、焼津市ターントクルこども館での活動、大洲小学校4年生との交流、地域のボランティアによる読み聞かせの学習について紹介。

(中) 焼津市環境課の方からの生ごみの処理について、柳屋本店から講師を招いての体験授業、焼津青少年の家での宿泊についての紹介。

(高) 「かつお節工場」での体験、茶の都ミュージアムでの体験、染飯千貫保存会の方とクチナシを使った染め活動についての紹介。

【小学部】：田沼南公園、前島東公園、前島上東公園での活動や公共遊具を使うルールやマナーについての学習、交通安全教室で交通指導員の話聞き実施指導を通して通学路について知る、「静岡のまちを調べる」学習で藤枝駅や静岡駅で駅員との関わり、高洲南小学校との学校間交流、交流籍を活用した交流について紹介。

【中学部】：公共交通機関を使用して静岡ホビーショーの見学、静岡県の緑茶生産につ



いての調べ学習でお茶の都ミュージアムを見学、柳屋本店から講師を招き体験学習、静岡県水産技術研究所『うみしる』や深層水ミュージアムの見学、小川漁港河岸食堂での食事、焼津少年自然の家での宿泊学習、藤枝市上伝馬商店街や白子商店街、蓮華寺公園、慶全寺、大慶寺を探訪、大洲中との学校間交流、交流籍を活用した交流についての紹介。

【高等部】SDGsに関する取組を学習に盛り込んだ静鉄ストア藤枝駅南店での活動、藤枝北高校園芸班との交流、志太消防本部予防課から講師を招いての学習、藤枝市選挙管理委員会職員から選挙について学び模擬投票を体験、静岡県中部健康福祉センターから講師を招き性に関する知識を学ぶ、藤枝市役所スポーツ振興課から講師を招き親しみやすいスポーツの紹介や体験、栃山川整備班による栃山川沿いの環境整備等について紹介。

(4) 協議 I <進行：委員 F>

テーマ

本校の「地域の『ひと もの こと』とつながる学習」をさらに充実するために、(委員の皆様が)現在の御自身のお立場で、さらに(新たに)できることは何か。

【委員 F】:それぞれの学部で紹介をしていただきましたが、委員の皆様の中で先に質問があればお聞きしていきたいと思います。

【委員 C】:素朴な疑問ですが、実習先や実学チャレンジフェスタでの生徒さんたちの売り上げというのは学校運営に反映されているものなののでしょうか。

【事務長】:そちらの方は県の収入になります。

【校長】:教育活動で行っているので、例えば作業製品を作った時に金額を見立ててそれを一度PTAにお買い上げいただいて、それで実際に得た収入をPTAにお返しするような形で儲けることはありません。材料費と成果物の価値がどれくらいかというのを一般市場のものを参考にしながら高等部で計算、管理職で確認をして価格を設定して行っています。なので「売り上げがあつてよかったね。みんなでパーティーをしよう」ということはありません。

【委員 C】:生徒さんの励みになるということと、市場経済につながるということかなとも思ったのですが、意外に一般の人はそういう事情(売上金の経緯)を知らないなと思います。まさかパーティーをやっているとは思わないですが、どんな仕組みで計算されているのかなと疑問に思ったので質問させていただきました。

【高主事】:販売会をやるとお金のやり取りがあります。それに関して私自身も、生徒たちはお金に関してどう思っているのかなと疑問に感じています。確かに、彼らは授業として行っていることなので「たくさん売ろうね」ということが彼らの励みにはなっていると思いますが、「そのお金はどうなっているの?」というところはもしかしたら生徒にも分かる範囲で説明をしてあげるのがいいのかなと思ったところです。参考になる質問をありがとうございました。

【委員D】：様々な取組を報告いただいて、本当にたくさんの方をやられているなど感じました。この中で課題になること、何が足りないのか、今後こういう風にしていった方がいいのではないかとという点がなかったので伺いたいです。

【高主事】：地域作業での取組が多いですが、事業者様の方で働く環境を提供いただく中で、やはりやれる生徒が限られてしまっています。それは、ある程度作業遂行能力が高くなければ迷惑がかかってしまうということです。実際に外に出向いて行っている活動というのは、障害が軽度な方が多いです。では重度の方はどうしているかという、委託作業といってもらった仕事を校内でコツコツやっていることが多いです。ただ、それは彼らにしてみると「どこから湧いてきた仕事なんだろうか」と思っているのではないかと。これで果たして地域とつながっているという感覚が子供たちにあるのかという、そこは難しいのかなと思います。

【中主事】：校外に公共交通機関を使っていくときで言いますと、先ほど写真でもお伝えしましたが全ての生徒が交通ルールというものを守られていることはなく、それは体験の少なさからくる課題かなと思います。また、お金の支払いの学習も行っていましたが、今は電子マネーやICカードを使った学習や体験もしていかなければいけないかなと思います。実際はそれらを使っている子もいますが、一方で持っていない子や触ったことのない子もいて、生徒間でも差が生じています。これは家庭での取り組みにも関係してくるところかなと思います。やはり経験をしている子は上手に使うことができていると思います。家庭科の学習で言いますと、出汁の学習をしたのですが、これを普段からやっていくかといわれると難しいかなと感じます。お手伝いなども普段から行えば色々なことが身に付くのですが、焼津宿泊で行った布団のシーツ敷きなどが良い例で、普段から物を使う手を使う経験をしていないことが課題かなと思います。総合的な学習の時間ではよく校外に出て歩くのですが、本校の生徒たちは登校にスクールバスを使っている子が多いので、歩き慣れておらず体力が無くてすぐに疲れてしまう姿が見られています。公共交通機関を使うときもそうなのですが、自分からどれだけヘルプを言えるかということも課題の一つだと思います。「助けてカード」を鞆に付けている生徒もいます。周りの方が気付いて声を掛けてくださることもありますが、自分の言葉で「大変」「助けてほしい」ということを言えない現状ではあります。学校間交流や交流籍を活用した交流では、いかに普段からの付き合いができるかということが課題になるかなと思います。イベント的で終わってしまっているところがあるので、普段から付き合いができるといいかなと思います。作業学習については、外に出ていける活動ばかりではないので、色々な作業製品を学区の中学校に紹介できるといいかなと思います。

【小主事】：小学部の児童たちは公園などに行き地域を知ることはあるのですが、地域の方を呼んで色々な話をしたり、体験をさせていただいたりというのはこれから楽しみにしたいところかなと思います。また、人との交流だけではなく、作品交流みたいなものをしてたくても作品を飾るものがなかったり、作品を飾るスペースが

足りなかったりと、一重に作品と言っても難しいところがあります。タブレット端末が一人一台ということで子供たちも触れることがあります。今回の学習でも、藤枝で自分たちが行ける公園のマップ(道順)を自分たちで作っていました。例えば、自分たちで行きたいところをどうやって調べればいいのかというヒントになるものがイラストなどで見られたり、こんな遊びができるというもの紹介されていたりするものがあると良いなと思います。課題というわけではありませんが、知的障害のあるお子さんたちが調べやすいものがあると良いなと思います。

【肢体統括】：肢体不自由の子供たちは色々な経験が少なく、家庭でもどこか外に出かけるという経験が少ないという現状です。それは、外に出ることがすごく大変に感じているのかなと思います。校内は自分で車いすを動かして移動できる子供たちも、一步外にでるとちょっとした段差で大変さを感じてしまいます。例えば10人の子供たちで校外の学習をしようとする、10人の大人の手が必要になります。そこで公共交通機関を使うとなると、10人の車いすを使った子供たちが乗れるバスは走っていませんので、数人に分けて乗らなければなりません。本校にあるスクールバスでさえも車いすを固定できる数は限られていますので、みんなで一緒に移動しようとなるとすごく大変です。では、そのところを福祉タクシーで補おうとするとお金がかかってしまいます。なので、外に出るといのはなかなかハードルが高いのが現実です。先日も、中学部が修学旅行に新幹線を使って行ってきましたが、固定で乗れるスペースというのは1台しかなく、個室が使える11号車も限られた人しか使用できない状況でした。7人の生徒と一緒に行きましたが、本当は横になって移動したい生徒も一定区間は我慢してシートに座るといった工夫をするしかなかったの、やはり肢体不自由教育にとって外に出るとい活動そのものが、ハードルが高いのかなと感じました。ただ、色々な活動や体験をさせてあげたいと思うと行先を探したり、交通手段を考えたりというところで課題があると思います。

【小主事】：一点、伝え忘れていたことがありました。本年度、小学部は三日間に分けて運動会を開催しました。一度に開催できない理由の一つとして、保護者が一度に来校すると車を駐車する場所を確保できないということがあります。駐車場を確保することができる、小さなお子さんたちにとって御家庭の方が応援に来てくれることで頑張れることもあるものですから、是非保護者の方々には応援に来ていただきたいのですが、駐車スペースがないことをどうにか解消できないかなと切に願っているところです。

【委員 D】：ありがとうございました。非常に参考になりました。課題を伺った理由は、この後の協議テーマとも関係してくるのですが、現状の課題や不足している部分が明確になっていない中で、更にプラスになることを聞かれても正直答えられないということです。本来、企画というものは何かを考えるのであれば、現状やっているものが良いのか悪いのか、変えた方がいいのか、今やっているものが良ければプラスでやる必要はないと思いますし、足りないのであれば更にやる必要があると思います。でも、そこが明確になっていない中でこういった「ひとものこ

と」につながる学習の取組を考えましょうというところで言うと、非常に題材として広すぎると思います。今、お話をお伺いした中で非常にストックの課題感というのは抱えられているのかなと思いましたので、ここの課題を解決するようなものについての提案でしたらもっとより良いものになったのではないかなと思いました。その中で各々が考えてきたものだけですと、今お話された課題は解決できないですよ。なので、そこを最初に挙げたうえで、こういったものに対して何かできないですか、ということでお話いただけると一番良かったのではなかったのかなと思いました。今回のテーマとして受け身な感じがするのですが、学校としてどういう風にしたいかというものを視点として絞ったうえで、こういったテーマをもっていたきたいなと思いました。課題感は理解することができました。

【委員 F】：教育課程や行事予定が手元にあると分かりやすかったです。というのも、色々準備活動も学習の前にあると思います。今やっている全てのものが計画的に組みまれているとは思いますが、どうしても時間的に足りない、手が足りない等が発生してくるものもあるのではないかなと思います。実は、私の学校の行事予定もかなり窮屈で、2週間に1回くらい全校で行う行事が入っている月もあります。生徒も職員もそれに携わっていくわけですが、やはり準備が詰まっている部分が出てきています。（藤枝特支では）今やっているこれだけの量のものが、効率よくできているのかということをお聞きしたいと思います。

【高主事】：学習指導要領に年間の授業時数が特支の高等部では1050時間ということで定められています。本校高等部では、単位というものがありませんので、何でどれだけの時間を割くかということが任せられているという側面が大きいと思います。高等部としては、作業学習にかかる時間が圧倒的に多く、集中作業といって職場実習に行く前の段階で行うものもあります。これらはおおよそですが、年間500～600時間割いています。ですので、バランスということで考えると先ほどありました体力で言いますと、少し歩いただけですぐ疲れてしまう、立ち続けて仕事ができないといったところで体力を強化する必要があると思います。あとは、保健の指導として、性の指導は積み重ねが必要な生徒もいまして、その生徒たちを抽出して指導する場面が多くなってしまいうということもあり、全体のバランスを見た時にこれが本当に適当なものであるかは常に課題としているという意識はあります。そのために、年度末に行う教育課程編成の検討でバランスよく組んでいければいいなと思います。

【中主事】：学校の行事や学部行事では、肢体学級も含めてバランスよくやらなければならないということで、日にちの並びが良いところは調整が必要です。教育の中の課程ですと、先ほどありました作業学習のところで3.4校時の10時45分から12時10分の間で一番時間をとっています。目安として年間で70日程です。生活単元学習の時間は年間で44日程です。家庭科は26日、総合的な学習の時間は17日、美術は17日程度と決まっております、それらを調整するのも難しさがあります。ま

た、計画書などを作成する時も時間や安全対策を考えて作っていきますので、そこ
でいかに効率よくポイントをおさえた計画書を作っていくかが課題になります。

【小主事】：小学部につきましては、その辺がかなり整理されておまして、行事で日
常が窮屈になるということは今のところ無いと感じています。関連させた学習を行
ったり、前もって準備をしたりすることができるように取り組んでいると思います。

【肢体統括】：肢体不自由学級の児童生徒だけで行う校外学習と知的学級と一緒に合
同で行う校外学習が乱立しているというか、両方あるという現状です。そこら辺
はもう少し整理できるかなと思っています。肢体不自由教育の中で校外に付き添う
教員の人数を学年や学部全体で調整してはいますが、回数が増えてくると校内で学
習している児童生徒への影響もでてきますので、それらのバランスを考えながら計
画しています。

【教務主任】：全校で行っている行事は、今年度は12月になりますが「ふじとくまつ
り」になります。コロナ禍の3年間を経て、これまで全体で行っていたものを学部、
学年で行えるもの、それでも全体で行った方が教育的価値がある、といった見直し
をして、現在の教育課程を編成しています。

【委員F】：色々な課題をいただきましたので、今のお話の中でもご感想やこれからの
ことについての御意見をいただきたいと思います。

【委員D】：課題をお出ししていただいた中で、弊社としてできること、御提案でき
ることをお伝えします。これまでもやっていたと思いますが、店舗実習や店舗見学
については回数や頻度をもう少し増やすことができると思います。また販売会では
ふじとくプロダクトとして、1回だけでなく販売できる場や地域とつながる場とし
て増やしていけるかなと思っています。来年の5月になるのですが、藤枝の善左衛門に
精肉の工場を作る予定になっています。今、建築を始めております。そちらの方で
も見学や障害就労も2名程の雇用を行うことを検討していますので、そういったと
ころで対象の方がいればなと思います。あと、やれることとして現状と弊社の取組
と不随してということで紐づけになるのですが、「フードバンク」というものをやっ
ています。SDGsの取組です。まだ、賞味期限があって家では食べないという商品を
寄付して頂くといった形です。ボックス型のもをお店に設置して寄付して頂いて
います。それらを日によって強化していく、イベント的なものしていくことをして
います。『この日に来て寄付して頂くと、エコバックをプレゼントします』といった
取組を一部行っていますので、もし生徒さんたちの活動と紐づけるとしたら呼び込
みや声掛けなどを一緒にできるのではないかなと思います。また、学校に来て講義
的な部分ではSDGsの説明についても先日行わせていただきましたが、それ以外の
部分で食に関する講義みたいなものもやることは可能かなと思います。『どうい
った流通で皆さんのところまで至っているよ』という話や、商品の特性や特徴につ
いてもお話することは可能ですので、そういうところで社会とつながる、自立した生
活につながるようになればいいと思います。また、先ほど課題であげていただいた

お金のお支払いについて言いますと、店舗では支払い方法が様々あるので（交通系の電子マネーは扱っていない）、練習の場として提供や協力ができるかなと思ってます。色々な場で協力できますので、生徒の成長につながっていければいいなと思います。

【校長】:いくつかの講座を提案していただいてありがたいなと思います。それは高等部の理解力のあるお子さんに対して、食のお話ができるということでしょうか。本校には、栄養教諭がいるものですから食育については栄養教諭もたくさん授業に入っています。例えば、中学部や小学部の高学年でも「御社（〇〇店）の人が来てくれたよ」と伝えれば関心度が高まるのかなと思うのですが、その辺りはどの学齢でも依頼すれば可能でしょうか。

【委員D】:それは学年問わず、大丈夫です。内容については、どのくらいの理解度があるかを確認させていただきながらという形になりますが、実施は可能です。

【委員F】:フードバンクというのは、どのくらい集まるのでしょうか。

【安本氏】:年間で50トン位です。お米とかも未開封のまま5kg、10kgをボックスに入れてくださる方もいます。家では食べきれない、貰い物だが自分では食べられないといった様子で寄付してくださる方が結構いますので、大きいドラム型のボックスがひと月に2回満杯になる感じです。

【委員E】:現在、第5次障害者計画が今年度で終了するというところで、第6次計画を策定しています。先日、その策定について若杉先生（副校長）にもご出席いただいて、皆様に御意見をいただきながら進めているところです。最近の福祉の目標というのは、全ての分野で共生社会の実現です。誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる社会を実現するというのを大きな目標としています。その中で、障害分野においてそれを実現するために何が一番足りないかということ、やはり「市民意識」「市民理解」の啓発が足りないということが一番大きな問題ではないかと言われてます。委員の方からも当日、「小さいうちから一緒に（障害のある子と）暮らしていない大人が今の社会を築いているから、市民理解が進まない。これを根本的に変えていかなければダメだ」というような厳しい国の施行にかかるようなことも言われてしまいました。その辺はどこまでできるかという問題はありますが、まず何よりも市民意識の啓発が大事だということで、今回の計画では最初にその項目を掲げさせていただいた形で、今進めているところです。では、何をすべきなのかということ、特別支援学校さんはこれだけ素晴らしい活動をしているという中ですが、我々がいつも市長に怒られていることは、良いことをやっても市民が知らなければ、やっていないのと同じだということです。特別支援学校さんがこれだけの活動をしているのに、どれだけ周知しているかです。我々も障害者の方について理解してもらうために、どうやって周知していけばいいのかということについては、本当に難しい課題、難しいテーマなのですが、今の段階からどんどん積み上げていくことによって何年か先、遠い未来になると思うのですが、共生社会というものが今

よりももう少し進んだ形になるのではと思います。今は創世期みたいな部分もあるのですが、一緒になってまた今後どのような形で市民の皆様理解を進めていければということです。こんなに良い活動をやっていることについて、どうやって知ってもらえるのか、特別支援学校はどんなことをしているのかというところを地域の方々に知ってもらえるのかを自分たちも一緒に考えていきたいなと思っています。

先日、その啓発活動の一環として「ともフェス」を4年ぶりに開催したところです。障害者の方たちの活動を皆さんに知っていただくという趣旨のイベントです。そのイベント自体は、障害者の方々が非常に生き生きと楽しくやっていたというイベントでありながら、実は障害の関係者しか来ていただいていたというの大きな課題でした。1回目の学校運営協議会の中で障害者の方々の活動が、「待つ、呼んで、知ってもらえる」のではなく、「自分たちから出向いていく必要がある」という話がありましたので、その意見を参考にさせていただいて来年度以降もう少し考えて進めていきたいと思っています。今回初めて絵画展というのを行いました。特別支援学校さんからもたくさん作品を出していただいて、金賞の1年生の作品は本当に評価が高く、実際そのお子さんを見たらびっくりしてしまいました。こんなお子さんが描いてくれた作品なのだ。その審査をしていただいた美術協会の会長さんも、こういったものを是非続けてもらうのと合わせて、何か一緒になってできるものを考えていけたらと言っていたので、スポーツ・文化というのはそういう力を持っているのだなということを含めてまた色々と考えていけたらなと思います。この学校運営協議会に参加させていただいて、何か一緒にできることはないのかなということも思っているのですが、いつも、概論のことばかり言って具体的なことが何も進まない状態で本当にすみません。今、藤枝市では「テレワークオフィス藤枝」という障害者のテレワークオフィスを支援しています。現在、16人の定員の中で10人程いらっしゃいます。その趣旨としては、発達や精神に課題がある方が職場関係や人間関係で勤務ができない方に対しまして理解ある企業さんに、利用料を払っていただいて見守りつきで遠隔でパソコンを使った仕事を、雇用契約を結んでいただくという形のテレワークオフィスというものを運営している法人がいます。そこを全面的に支援しています。何等かの形で、特別支援学校さんの生徒さんが体験できるようなものを、今後御相談させていただければと思います。

質問をさせてください。「ぼるね」や「ターントクル」には行かれているようですが、藤枝市の蓮華寺スマイルホールは何か課題があるのでしょうか。障害のあるお子さんにとって何か使いにくいところでもあるのでしょうか。あと、小学部の方でお話いただいた公園のマップについては、今後また担当にも伝えたいなと思います。今回の計画で情報のアクセシビリティというのは障害者にとって健常者と同じように情報を得るための合理的配慮について強く推進するということになっていますので、こちらも課長に伝えたいと思います。

【肢体統括】：蓮華寺スマイルホールですけれども、藤枝市に住んでいる職員ばかりではないものですから認知度が高くなかったということだと思います。実際、蓮華

寺公園に校外学習で行かせていただいたときがありました。その時に蓮華寺スマイルホールの奥の方にある広いフロアのスペースを利用させてもらって、「ここにこういうのがあるのだね」と初めて知ったということがありました。1組（肢体学級）の子たちにとっては、アクティビティと言いますか、アスレチックのような場所なので子供たちの実態に即さなかったという感想がありました。ただ、蓮華寺スマイルホールの全部が利用できないわけではないので、公園とホールとの組み合わせで利用を考えていければと思います。

【委員 C】：こちらの学校で取り組まれていることは、本当に素晴らしいことで私も委員になって初めて、具体的な取組を知るに至りました。そして、共生社会の実現に向けてやはり、我々大人、それから大人に向かっていく学生がいかにかこちらの学校と共に成長していくか学んでいくかということがとても大事になってくるなど強く感じました。共同学習の紹介をいただきまして、こちらの生徒さんもそして連携校（交流校）の子供たちも生き生きとするというお話を伺って、そこがとても大事だなと思いました。いかにそのパイプや仕組みを作っていくかということが、大きなポイントになるかなと思っています。共同社会の実現に向けて、人としての成熟度を高めていくためには共に良いところをみていくことを、この協議会の中で見つけていけたらと思いました。具体論になりますが、人手不足といったところではボランティアといったところになるかと思いますが、学生を共に育てていただきたいという思いがあります。先生方も、いきなり学生が来て無駄になることはないと思いますが、御存じのように学生がお世話になってしまうこともありますので日頃からどれだけ（共生社会と重なる部分もありますが）つながりをもって交流していて、個に応じた対応がお互いにできるようになっていけるであるとか、こちらの学校の特性と本学の学生の特性をマッチングさせていくかという、いかに平素からの取組を頻度、質、量を深めていくかを具体的にやっていけるといいのかなと思います。学生も特別支援学校の免許をとれる仕組みもありまして、ボランティアに興味を持っているものの、意外に窓口などに上手く流れていないような感覚もありますので今後その辺りも共に成長していければいいなと思います。また、チャレンジフェスタの話ですが、大学の学祭などに出席していただいて、こちらの生徒さんも本学の学生も学びと触れあいの機会になるかなと思いました。先ほど、采女先生（小学部主事）の話にありました駐車場の話ですが、3日間に分ければ一日分の保護者の駐車場を確保できるということで、例えばですが行政の力も借りると思いますが、近くの大学のスペースを借りてそこからシャトルバスなどで保護者を送迎したり、地域と連携をとったりして、休みの日の大きな企業に駐車スペースを借りるなどのことも積極的に発信していくことで具体策が見つかるかなと思います。企業にとっても役に立てるということは喜ばしいことだと思います。私は、富士に住んでいて富士のスターバックスのお店に知り合いの方がいるのですが、特別支援学校の作品展示をされていてとてもお店の雰囲気 matches していて、地域の方に知っていただくいい機会になっていると、生の声を聞いています。藤枝市でもスターバ

ックスを活用していただいて、子供たちとの居場所作りとして取り組んでいけるのではと思いました。また、そこに学生を絡めていただければ学生にとってももの大きな学びになると思います。会社の活動（委員 D）を YouTube にあげているということで、素晴らしい取組です。学校としてもインスタや YouTube などを積極的に行っていくと共生社会に向けて良い発信になるのかなと感じた次第です。

【委員 G】：保護者としなくても、委員 G がおっしゃった「課題を明確に」ということは大事だなと思いました。親としてもやはり今日より明日、少しでも前に進んでいくためには課題を明確にしないといけません。しかし、私も課題を見つけるのが下手でして、ハードルが低ければ課題になりませんし、かといってハードルが高いといってもダメです。適度な、実現可能な、今に適した課題を見つけるのは難しいのですが、明確にするのは本当に大事だなと再認識しました。課題を見つけるために色々と校外学習などをしていただいて、有難いなと思います。バスに乗ればボタンを押してしまうということでマナーを学ぶだとか、新幹線に乗ることになれば移動中も大変だということで、外に出ることによって今に適した課題を見つけることにつながるのだなと思います。先生方もそういうことを考えながらやってくださっているのだなと感謝いたしました。外に出て行くことで課題を見つけることになりまして、共生社会への実現に向けて、校外に出て行くことで自分たちのことを知ってもらいこういうところが不便なのです、こういうところにニーズがありますということをアピールすることになるのかなと思います。会社（委員 D）のフードバンクで年間 50 トンのものが集まってくるといったことから、良い人が多い、人間捨てたものじゃない、皆さん助けてくれるといった国民性があるなということを感じながら、保護者としては感謝しています。

【委員 F】：自校のインターアクト部ですが、時々こちらの学校と交流があるということですが、定期的な交流も考えても良いと話していましたので機会があればお願いしたいと思います。それから、今本校にこちらの学校の絵が 2 枚飾ってありますが、これから逆もしていくということで、こちらの学校に本校の絵を飾っていただけるということでしたので、お願いします。

本日の協議のことですが、課題を明確にしてできることにつなげていくということが大事かなと感じました。それから、様々にやっていることを発信して多くのことを周知してもらおう。外に出て行くこともそうです。そんなことが大事かなと思いました。今後はそのようなことも考えていただいて、この学校の発展につなげていけたらと思いましたので、よろしく願いいたします。

<休憩… 5 分間>

(5) 本校の「安全管理」について ～学習環境整備・校内設備点検に焦点を当てて～

【副校長】：後半は本校の安全管理のことについて話題にしたいと考えています。昨今学校現場での色々なニュースもあり、学校の中で子供たち及び働いている職員が安全

に過ごせるようにどの学校でも気を付けています。文科省からもそのような通達が出ています。本校でも工夫をしてやっております。本日は、せっかく学校外の方々に来ていただいていますので私共が普段やっていることの中に、私たちの視線や視点では見えない部分というのがあるかと思い、この機会を設定しました。本校は教職員全員が安全点検を行っていますので、その仕組みについて、簡単に説明します。

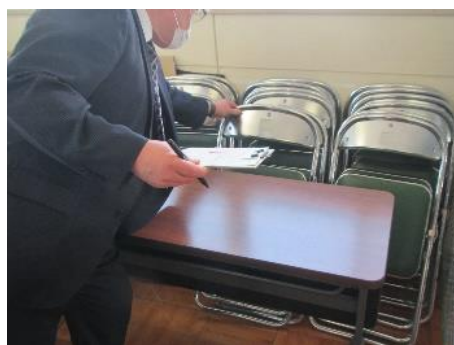
・「本校の安全点検」の仕組

【教頭】：各教室やトイレ、特別教室等で消防設備や水道、床などの確認を毎月一回、月初めの一日の日に行っています。今お伝えした項目でデータベースの方に○か×を付けて確認します。点検されていない場合は取りまとめをしている総務課から、声がかかるという形になります。不備や修理が必要な場合は技能員の方に修繕をお願いしています。

【副校長】：安全点検は月に一度行っています。それぞれの教室に管理責任者という者を配置し、誰がここの部屋を管理するかという担当が決まっています。もちろん自分の担当以外のところは無視していいというわけではありませんので、気が付いたらその都度修繕依頼をしたり、何かしらの報告があがって対応したりすることを日々行っています。その中で、私共はチェック項目に基づいてやっているのですが是非違う目で少し気が付いたことを教えていただけたらと思います。

ピンクの付箋と青の付箋をお配りしています。今から短時間ですが、各エリアに分かれて校内を歩いていただきます。ピンクの付箋には見直した方がよいこと、対策をした方がよいこと、緊急に対応した方がよいことを記入してください。青の付箋には、良い取組、プラスアルファでこんなこともできるのではという視点で書いていただければと思います。

<校内巡視…30分間>



協議Ⅱ

テーマ

校内巡視から見えた本校の『安全管理についてのアイデア』を整理し、問題解決につなげる

○委員の方々からの御意見

*ピンク付箋（見直し、対策が必要）

- ・床と設置部のささくれ
- ・階段の柵
- ・階段の踊り場のはしごに登ってしまう
- ・柵の凸凹、がたつき ★
- ・目隠しで使っているガードの劣化
- ・電球がLEDになっていない ☆
- ・蛍光灯、電球カバーがないところが多い ☆
- ・廊下の柵
- ・木製柵の強度の確認が必要
- ・廊下に物が多い ★
- ・廊下に通行の妨げになるものが多い（パイプ椅子の整頓が必要） ★
- ・廊下の防御ネットの危険性
- ・渡り廊下の窓が割れたら危険
- ・窓の施錠が甘く、人が出られてしまう ★
- ・木工室にある機材のコードが抜かれていない ★
- ・木工室のコンテナや柵から木材がはみ出ている
- ・作業台の可動ロックがされていない
- ・多目的学習室に積んであるパイプ椅子が危険 ☆



<★ すぐに対応できそうなこと>

日々の確認で、不必要な物は撤去したり、教員同士で呼び掛けをしたりしながら安全管理を徹底していく。

また、何のために置いているのかを確認し合い（日常的に必要なのか、期間を定めて必要なのか等）、子供の目線で点検することが大事。

<☆ 時間、費用等がかかる>

電気のLED化は長期的に考えれば電気代の節約にもつながるが、校舎内全てを取り替えると、現時点では予算を充てるのが難しい。様々な機関と相談したい。

校内の狭隘化も進んでいるため、物をしまう場所の確保が必要になってくる。

*青付箋（今後も続ける、精度を上げる）

- ・ ガラスフィルムが貼ってある
- ・ 網戸が固定されている
- ・ 段差のない入口
- ・ 通路が確保されている
- ・ 鏡がアクリルになっている
- ・ 廊下にヘルメットが設置されている
- ・ ケースや棚が紐等で固定されていて、転倒防止策がなされている
- ・ トイレにある洗濯機が鎖で固定されている
- ・ 電気コードのレールがしっかりと巻かれている



○事務長、各部主事から

【事務長】：電球のLED化と電気カバーについては、経費がかかってしまいすぐに対応することは難しいかと思えます。ただ、LED化することで省エネにもなりますが、とにかく経費がかかってしまうというところがあります。電球を交換する状況になったところからLEDに変えているものもあります。また電気カバーについては、何せ数が多いものですからすぐにはできないかなと思っています。次、皆様が来校された時に少しでもここが変わったのだなと思ってもらえるように頑張りたいと思います。

【高主事】：コンセントのさしっぱなしについては、いくら鍵のかかる教室であっても抜いておかなければいけないと考えますので、すぐにでも周知して対応していきます。また木工室の整理はすぐにできますし、今回一緒に見て回って棚の劣化や落下防止策などについては本校の技能員に依頼しながら修繕していきたいと思えます。

【中主事】：窓のストッパーに関しましては、子供たちの力で開いてしまうので、授業が始まる前には必ず開閉の幅や施錠等について確認するよう職員に声をかけていきたいと思えます。また、ロッカーの清掃用具の整理がされておらず、開けると用具が飛び出してしまう時もありますので、こちらも声をかけて整理するようしていきます。またコンセントのさしっぱなしについては、日直で最後に見回る時などにも見つけることが多いので、声をかけ合っただけですぐにでも改善していきたいと思えます。

【小主事】：すぐできることはたくさんあるなと思えました。パイプ椅子は使ったらすぐに片付けること、机や棚の角の緩衝材を貼ること、窓のストッパーの確認、車輪がついた机の修繕についてはすぐにできると思えます。また、廊下にあるハンガーラックが固定されていないところがありましたので、こちらもすぐにやりたいなと思えます。

【肢体統括】：1階で物が多いのは、特に1組のところかなと思えます。廊下にある車椅子や生活椅子については、すぐに使うことができるようにと考え置いてありますのでどこかにしまうということは難しいかなと思えますが、それ以外の物については収める場所に収める、使ったら元の場所に片付けるということを徹底していきたいと思えます。当然のことなのですが、先ほども掃除道具が出しっぱなしだったと御指摘い

ただきましたので、やるべきことはきちんとやるということを周知していきたいと思
います。また、1組の廊下で使われているプラスチック段ボールや緑のネットですが、
この学校に勤めていたら当たり前のように使われているものですが、これらは何のた
めにあるのかなということをもう一度確認していきたいと思います。緑のネットは棚
の物が落ちてこないようにしっかりと張られていなければいけないものかなと思
いますが、たるみがある箇所もあり、それでは物が落ちてきてしまうということで用途
として活かしていないでは意味がありませんので、今一度職員で意図を達成できるよ
う確認していきたいと思います。

【副校長】：すごく短い時間でしたが、とても大事なことを御指摘いただきました。そ
もそも私たちが気が付かないこともありましたが、気が付いてはいたけれども結果的
に放置をしてしまっていたものもありましたので、今一度職員間で話題にしてやっ
ていきたいと思います。学校運営協議会は2月にもあります。その時には、ここが変わ
っているということをお願いできるように日頃から努力をしていきます。また、
やはり普段私たちが見ているようで見ることができていなかったところを御指摘い
ただいたこと、あるいは床のささくれなど子供目線でない気が付かなかったことな
ど、点検をする上で様々な視点から捉えなければいけないと改めて考えさせていた
だきました。貴重な御意見をありがとうございました。

(6) 校長挨拶

本日はありがとうございました。大変限られた時間の中でしたが、テーマⅠ、テー
マⅡに沿って様々な角度からの御意見をいただけたことが大変嬉しく感じたところ
です。テーマⅠにつきましては、最終的には共生社会の実現であるかどうかどうやって
発信をしていくかというところが、どの委員の皆様からも等しく出てきた言葉なのか
なと感じました。SNSを上手に使う方法もありましたし、できることとできないこと
を精査しながらより発信できる何かを作っていきたいということを強く感じたところ
です。テーマⅡにつきましては、本当に気付かなかったな、うっかりしていたなと
いう所も多々ありました。正しくその通り、気を付けなければという所もたくさんあ
りました。こちらも今確認した所を、私たちが200人余りいる職員にどう伝えていっ
て、どうやって全員で取り組むかということが今日私たちに課せられたところである
のかなと思います。ここにいるメンバーだけが一生懸命やろうとしても、これだけの
校舎の中の整理はできないので、係の者、学級担任一人ひとりに何のためにこれをや
っているのか、こうすることで子供たちにどんなことが返っていくのかというところ
を今一度精査しながら、今日の会が学校職員全員に伝わっていけるようしていきたい
と考えています。

今日は色々な御意見の中で、私たちが気を付けなければいけないことがわかりまし
たし、当たり前にやっていることなのですが「大変良いね」と言っていたことが嬉しく感じ
ました。池上教育長がよく「特別支援学校がやっていることは素晴らしい

い。なんでそれをもっと言わないのか」と校長会でも話題になります。私たちは当たり前前にやってきたことなのですが、そういう特支畑でない人からするともっともっとアピールしなければいけないことだよと、背中を押してもらっているような気がしましたので、それを含めまして今後はそれをどうやって発信していくかを私たちの課題として捉えながら進めていきたいと思います。今後とも本校の児童生徒、保護者の皆様そして学校を支えていくことでの御協力をお願いしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

(7) 閉会

～会の様子～

